ミニストップ株式会社
お問い合わせ先
ＣＳ本部　環境推進部
〒101－0054　東京都千代田区神田錦町　1－1　帝都神田ビル５Ｆ
TEL　03－3259－5284（ダイヤルイン）　FAX　03－5280－6089

本報告書は下記のインターネットホームページでもご覧いただくことができます
http://www.ministop.co.jp
（ＰＤＦ形式でダウンロードできます）

木を植えています
そして環境問題に取り組みます。

2000年5月発行
次回発行予定は2001年5月を予定しております

非木材紙普及協会
PRINTED WITH SOYINK

この報告書にはケナフ100%の用紙と大豆インクを使用しています

イオン グループ

環境報告書
2000年度

ミニストップ株式会社

CONTENTS

ごあいさつ……1
これまでの環境活動のあゆみ……2,3
環境理念・環境方針……4
環境マネジメント組織体制……5
事業活動における環境側面……6,7
食品の安全性……8
商品選定の基準……9
省エネ型店舗……10
環境を配慮した店舗設備・備品……11
低公害型物流……12
廃棄物の削減・リサイクル……13
オフィス内の環境啓蒙活動……14
クリーン＆グリーン活動……15
環境に関してのお客さまからのご意見……16
2000年度ミニストップの環境目標……17
イオングループの環境保全活動……18
財団法人イオングループ環境財団の取組み……19
環境報告書に寄せて……20
会社プロフィール……21

環境報告書の発行にあたって

ミニストップはジャスコを中核とするイオングループの一員として1980年の創業以来、コンビニエンスストア事業を柱に「花の輪運動」など地域に密着した環境保全活動に積極的に取組んでまいりました。こうした活動についてご理解を深めていただくため、創業20周年を機に環境報告書を発行することにいたしました。本誌では1999年の主な活動とその成果を中心に、これまでの活動のあゆみや今後の取組みなどについてご紹介しています。今後とも、皆さまとのコミュニケーションを大切に、活動内容を継続的にお伝えし、ともに活動を推進していきたいと考えます。

〈表紙の花〉パンジー（pansy）北ヨーロッパ原産のスミレ科2年草。ミニストップでは「花の輪運動」を通じて、全国の小学校にパンジーをはじめとする花や木の苗を贈呈しております。（詳しくは15ページ）

ごあいさつ

21世紀を目前に、社会の価値観が産業中心から生活者中心に大きく転換しつつあります。こうした中、私たちが直面している最も重要な課題は、地球温暖化、オゾン層の破壊、熱帯林の減少、砂漠化などに代表される地球環境問題です。

従来、環境問題は限られた地域での公害問題が中心であったため、その地域の自治体がさまざまな規制を設けて対処すれば、ある程度解決できました。

しかし、環境破壊や汚染が地球規模で進む中、規制だけの対処では十分な成果をあげることができなくなり、国や企業や生活者それぞれが自主的に環境保全に対する取組みを進めてゆく必要が出てまいりました。

「人にやさしく、環境にやさしい」企業をめざすミニストップにとっても環境保全活動は極めて重要なテーマであると認識し、これまで取組んできた環境保全活動をより積極的に全社的な活動に展開するため、1998年には環境推進部を設置し、月一回、関係する部門責任者を集め、ミニストップ環境委員会を開催してまいりました。

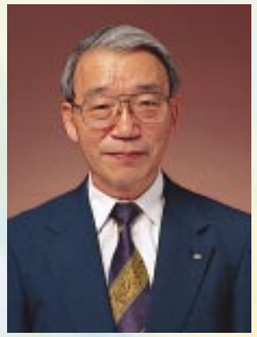
そこでは、お弁当に使用する米の減農薬米への切替え、商品に添付していた割り箸やフォークなどを削減するためレジでのお渡しに変更、ダイオキシン発生の原因のひとつと言われている塩ビラップをポリオレフィン系に素材変更など、さまざまな「人にやさしく、環境にやさしい」取組みを進めてまいりました。

西暦2000年の今年、ミニストップはおかげさまで創業20周年を迎えます。これを機に、私たちの環境方針や環境目標を見直し、これを達成するための環境保全活動を広く外部にお知らせする目的で「環境報告書」を作成いたしました。この報告書の発行によって、少しでも多くの方々にミニストップが真剣に環境問題に取組んでいることをご理解いただければ幸いです。

今後ともミニストップでは、全社を挙げて環境保全活動に取組んで行く所存です。どうか皆さまの暖かいご支援とご理解を心よりお願い申し上げます。

陶山勝

ミニストップ株式会社
代表取締役社長
陶山 勝



これまでの環境活動のあゆみ

年月		取組み内容
１９８０年	７月	ファーストフード用廃油回収を行い家畜飼料などへの全量リサイクル開始
	１０月	使用済み社内連絡用封筒再利用、メモ用紙再利用
８９年	２月	関東の物流拠点として千葉共同配送センターに集約
９０年	３月	イオングループ１％クラブに参加し税引前利益の１％を環境保全・社会貢献活動に支援
	４月	電圧調整機能付節電装置(ミニセイバー)を新店より導入
９１年	４月	再生紙の積極的利用開始（社員名刺、コピー紙、レシート）
	１２月	「ミニストップ緑の環境推進クラブ」を設立
	１２月	「育てよう、花と緑、校庭に」花の輪運動に協賛
９２年	３月	社員ボランティアによる「上野公園清掃活動」開始（毎月1回、２０００年6月で第１００回を迎えます）
９３年	２月	事務所、店舗の古紙回収リサイクル開始
	５月	プリンタートナーの再利用
９５年	４月	店頭の販促物にエコマーク認定再生紙利用開始
	５月	初の常温センターとして千葉配送センター稼働
	６月	２気室温度帯車両による配送の効率化
９６年	１月	冷凍ケースの冷媒を特定、指定フロンから代替フロンに切換え
	４月	消耗品のグリーン購入開始（事務用ノート、ボールペンなど）
	９月	社有車をディーゼル車から、環境負荷の少ないガソリン車に切替え

花の輪運動

上野公園清掃活動

年月		取組み内容
９７年	６月	オフィスのコピー用紙に１００％再生紙を使用
	６月	社員の名刺に非木材紙・ケナフ１００％を使用
	７月	営業用車両、配送車両のアイドリングストップ運動開始
	１０月	ペットボトル分別回収ボックスを店頭に設置(東京２３区内)
	１０月	お弁当に減農薬米の使用を開始
	１１月	ペットボトル分別回収ボックスを店頭に設置(埼玉県大宮市)
９８年	３月	千葉配送センターにCNG（圧縮天然ガス）車の導入
	５月	環境推進部設置
	５月	子供参加型のエコロジーミュージカル「クマゴンの森」に協賛
	６月	ペットボトル分別回収ボックスを店頭に設置(名古屋市他)
	７月	イオングループ「万里の長城、森の再生プロジェクト」に協賛
	８月	ビニール傘をEVA等、非塩ビ素材に変更
	１０月	お弁当・お惣菜の包装ラップをポリオレフィン系フィルムラップに変更
	１０月	東海地区配送センターにCNG(圧縮天然ガス)車の導入
	１０月	閉店店舗の冷凍機器からフロンガス回収開始
	１０月	東京都内４５店舗にて生ごみ堆肥化を実験
９９年	６月	ミニストップ環境委員会の設立と定期開催
	７月	お弁当等の割り箸、スプーン、フォークをレジにてお渡しする方法に変更
	９月	お弁当類に減農薬米の使用を拡大
	１０月	レインコート､ショッピングバックなど商品を非塩ビ素材に変更
	１２月	紙コップ、紙皿など商品を非木材紙ケナフに変更
	１２月	電圧調整機能付節電装置(ミニセイバー)の設置店舗４５４店に達する

エコロジーミュージカル「クマゴンの森」

環境理念・環境方針

イオングループの基本理念

お客さまを原点に平和を追求し、
人間を尊重し、
地域社会に貢献いたします。

ミニストップの環境理念

私たちはこの地球がいつまでも美しく
平和であることを願い
企業市民として
小売業を通じ地域社会との共生につとめ
環境保全活動に積極的に
取組んでまいります。

ミニストップの環境方針

ミニストップはフランチャイズシステムによるコンビニエンスストア事業の展開にあたり、
環境の汚染予防を図るため以下の基本方針を定めます。

環境マネジメントシステムの構築	継続的改善	法の遵守	全従業員の参加	方針の公開
環境ISO規格を積極的に取りいれたマネジメントシステムを構築し、循環型社会の実現に寄与いたします。	事業活動を通じて生じる環境に及ぼす影響を自主的に評価し、環境目的・目標を設定し、継続的改善を図ります。	環境保全に関する法規制、及びミニストップが同意する要求事項を遵守いたします。	全従業員及びフランチャイズ契約者の環境保全・改善に対する意識の向上を図るため、積極的に啓蒙活動を行います。	この方針は広く一般に公開し、適切な情報提供につとめます。

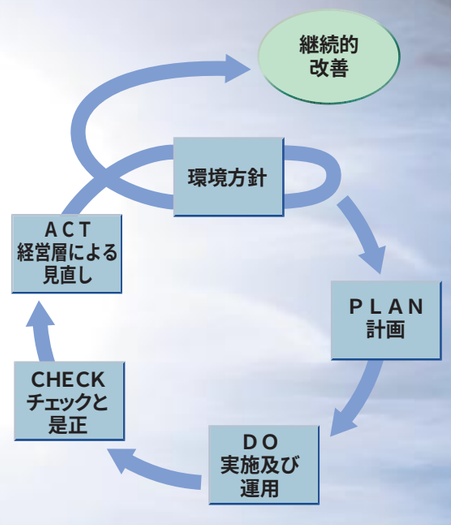
環　境　宣　言

1. 商品の開発、選定にあたっては環境に配慮いたします。
2. 廃棄物の削減、リサイクルを推進いたします。
3. 物流の効率化や低公害車の導入により大気汚染の防止につとめます。
4. 店舗やオフィス活動では省エネルギー・省資源に取組みます。
5. 緑化や植樹など自然保護活動に取組みます。

環境マネジメント組織体制

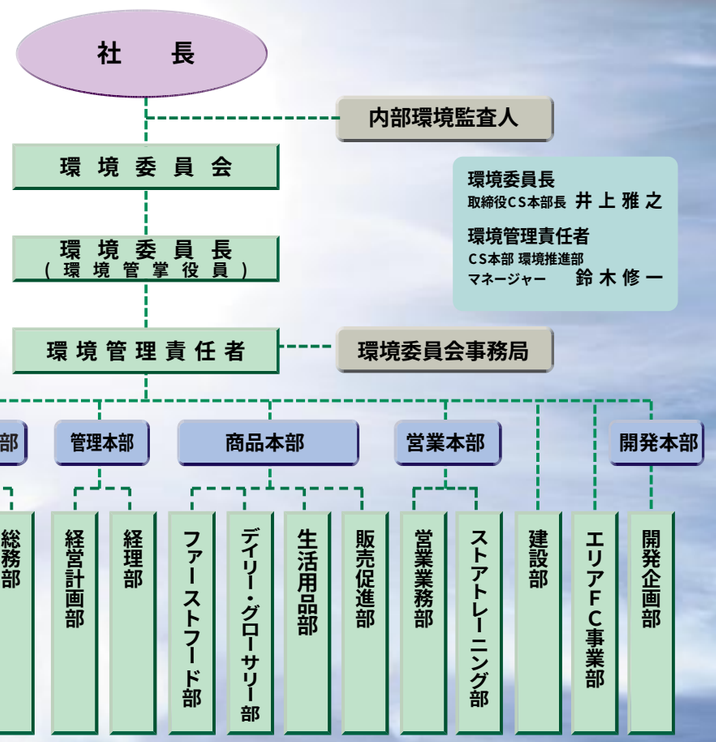
環境マネジメントシステム

ミニストップの環境保全活動は、環境マネジメントシステムを構築し推進していきます。
環境マネジメントシステムとは、環境負荷を継続的に低減させるための経営管理手法です。
まず、環境問題に対する経営方針を定め、環境目標を掲げ、その目標達成に向けて具体的施策を実行します。
一定期間後、目標の達成状況をチェックして経営層による見直しを行い、結果を以降の活動にフィードバックしていきます。



環境マネジメント組織・体制

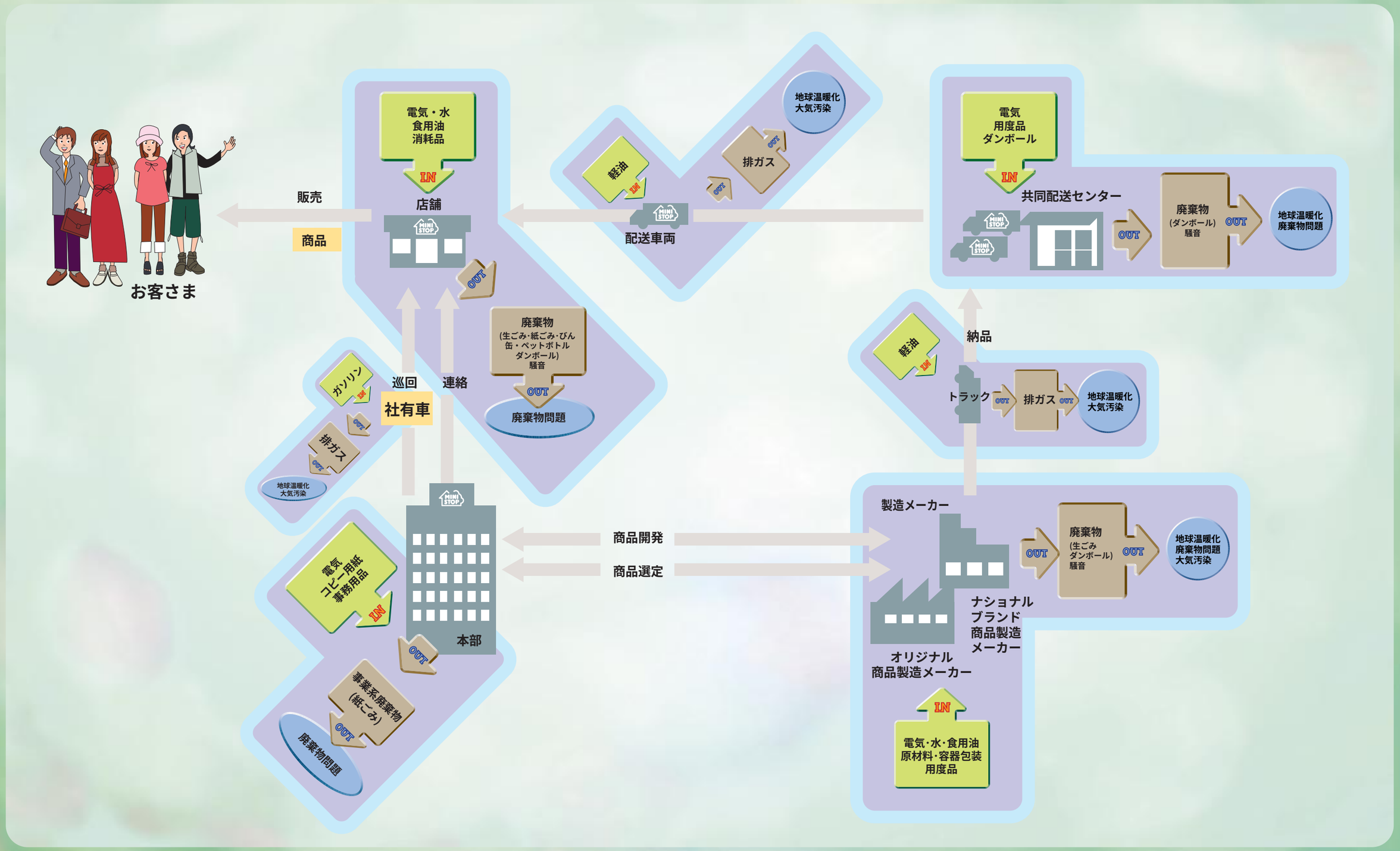
ミニストップ環境委員会の開催
役員を含め社員全員が環境問題に対し、高い意識を持ち環境保全活動の徹底を図るため定期的に開催しています。



事業活動における環境側面

ミニストップの事業活動は
環境にどのような影響をおよぼしているのでしょうか。

環境側面（事業活動を通じて生じる環境に影響を及ぼす原因となりうる要素）を徹底的に洗い出すことから始まります。



人も環境の一員であるから、何より優先すべき環境取組みは食品の安全性の追求と考えます

自然がもつ本来のおいしさと安全性を求め、お弁当やサラダなどに使われる、レタス、トマト、キュウリなどの野菜はできるだけ減農薬や減化学肥料で育てた素材を使用しています。

お弁当類にも減農薬米を使用

ミニストップでは97年からお弁当に減農薬米の使用を開始し、99年9月にはおにぎり・お寿司・お弁当に減農薬米の使用を拡大しました。
減農薬米を使用したお弁当は、人の身体にやさしいばかりでなく、農地の土壌汚染の側面からも負荷が少なく、地球環境にもやさしい商品といえます。

ミニストップでは農水省のガイドラインに基づいて、減農薬米の厳しい管理を行っています。

1. 産地を指定し全国農業協同組合の認定書を取得
2. 指定農地にはガイドラインにそった看板表示をする
3. 精米後は抜取り検査を行い、3日以内に炊飯商品化している
4. 農薬散布回数は普通米約21回に対し、ミニストップ指定の米は10回未満
5. 残留農薬検査においても基準値が0.1～1.0PPMに対してミニストップ指定米は0.1PPM未満

（減農薬米の使用実績）

生産年度	使用実績
97年度	約2,000トン
98年度	約4,000トン
99年度	約7,000トン

※ 減農薬栽培農産物とは…
化学合成農薬の使用回数が当該地域の同作期の作物に慣行的に使用される使用量のおおむね5割以下で生産された農産物（農水省「有機農産物等特別表示ガイドライン」より）をいいます。

お弁当、お惣菜の包装を非塩ビラップへ切替え

ミニストップではごみを焼却した時に発生するダイオキシン対策として、従来、お弁当やお惣菜等に使用されていた塩ビラップの見直しを検討しテストを繰りかえしてまいりました。
その結果98年3月より非塩ビ系のポリオレフィンラップに切替えを開始し、98年7月にはほぼ全品が切替えを完了いたしました。

商品の選定にあたっては、その商品が使用される時のみでなく、廃棄されたあとの環境への影響を配慮しています。

塩ビなど塩素系の化学物質は、不完全な温度で燃焼するとダイオキシンなどの有害なガスを発生するおそれがあります。ミニストップでは、このように環境汚染の要因となるような素材は、害のない他の素材に切替えられないものか、商品の選定の段階でふるいにかけてます。

ビニール傘の素材を塩ビからEVA（エチレン酢酸ビニルアセテート）等へ

従来、ビニール傘は安価で丈夫な塩化ビニルが素材に使われてきましたが、ミニストップでは98年8月より雨傘、99年10月にはレインコートを、燃やしてもダイオキシンを発生しないEVAなどに切替えました。EVAを素材にした商品は、従来の塩ビのものに比べて、コスト面では割高となりますが、商品価格は据え置き、環境への配慮を優先いたしました。

紙コップや紙皿には非木材紙ケナフを使用

直接、口に触れる商品には再生紙を使用することに抵抗があるようです。ミニストップでは99年12月より、これらの商品には非木材紙であるケナフに着目し、紙コップ、紙皿等商品はケナフ素材のものに切替えました。ちなみにこの環境報告書もケナフ100%の用紙が使われています。

パルプのコピー用紙

従来、紙の漂白には塩素系の漂白剤が使用されてきました。しかし、塩素系漂白で処理した紙は、燃やすとダイオキシンなど有害ガスを発生するおそれがあります。ミニストップの店内に設置しているコピー機は、全て非塩素系漂白によるエコペーパーに切替えました。

※ EVAとは…
エチレンと酢酸ビニルを高圧高温でラジカル重合したもの、燃やしても塩素系の有毒ガスを発生しない。強靭性、透明性、には優れるが耐熱性、耐油性にやや欠点がある。

ケナフとは…
アオイ科ハイビスカス属の植物で茎の繊維は固く、布・ロープ・製紙等に利用される。成長が早く、春、種をまくと秋の収穫期には高さ4～5mに成長し、パルプの代替原料として利用価値がある。又、大気中のCO_2の吸収能力にも優れ、地球温暖化防止にも役立っている。

写真提供：非木材紙普及協会

21世紀に向け環境保全型店舗の構築を目指します。

97年12月の地球温暖化防止京都会議にて日本は2010年までにCO_2などの温暖化ガスを90年比で6%削減することで各国と合意しています。省電力に心がけることは地球温暖化の原因のひとつとされるCO_2の削減にもつながり、ミニストップではこの責任数値の達成に向け店舗での省電力対策にも積極的に取組んでいます。

電圧調整装置（ミニセイバー）による消費電力の削減

ミニストップでは90年4月より店舗での省電力をすすめるため※ミニセイバーの設置を開始し、99年12月には454店舗に設置を完了しました。これにより1店舗あたり年間約9,300Kwh、454店舗では約426万Kwhの消費電力が節約され、地球温暖化の原因とされるCO_2に換算すると、約42万KgのCO_2が削減されたことになります。

ミニセイバー設置店のCO_2削減効果

削減項目	1店あたり	設置店数	総設置店削減効果
ミニセイバー設置による削減電力量	9,386Kwh	454店舗	4,260,000Kwh
ミニセイバー設置による削減電気料金	242,933円	454店舗	110,290,000円
ミニセイバー設置によるCO_2削減量	922Kg	454店舗	418,000Kg
CO_2削減量をガソリン消費量に換算	1,440ℓ	454店舗	653,760ℓ

（試算条件）1999年12月現在ミニセイバー設置店舗は454店舗
※CO_2削減量は削減電力量に対して、炭素換算重量0.096Kg-C/Kwhを基準に試算したものです。
※ミニセイバー消費量換算はCO_2削減量に対し、ガソリン車炭素排出量0.640Kg-C/ℓを基準に試算したものです。
※削減金額は1Kwhあたり24.65円で計算し、消費税を含んだ金額です。尚、基本料金は含まれておりません。

インバータ安定器を使用した照明器具の実験

現状の明るさを保ちながら、消費電力を約25%節約できる「HFインバーター安定器」を使用した照明器具の実験を開始いたしました。

※HF型とは…高周波点灯型

HFインバーター安定器

※ミニセイバーとは・・・

電力会社から供給される従量電灯の電圧は送電中のロスを見込んで100Vより数%高めに送られています。一方店舗内で使用する、照明機器は電圧を96Vまで下げても目視には殆ど判らないほどです。このミニセイバーは従量電灯の電圧を96Vになるようにコントロールし、消費電力のムダを省きます。(但し地域によってはもともと従量電灯の電圧が低く、削減効果があまり見込めないところもあります)

人にやさしいオゾン層を守るために

地球を取巻くオゾン層は、人体に有害な紫外線を吸収する働きがあります。しかし、このオゾン層がフロンなどの化学物質によって破壊されてきています。ミニストップでは店舗の設備や備品についても環境への影響を配慮し、※オゾンホールの原因とされる冷凍ケース等に使われているフロンガスについても環境負荷の少ないものに順次切り替えています。

冷凍ケースの代替フロン化

ミニストップでは96年1月より冷凍ケースの冷媒にそれまで使用されてきた特定、指定フロンからオゾン層への環境負荷が比較的少なく、塩素を含まない代替フロンへの切替えを始めました。99年12月末までには90%の店舗が切替えを済ませ、未交換店舗についても順次計画的に進めてまいります。

使用済みフロンの回収と破壊処理

それ以前に冷凍ケースなどに使われていたフロンは、ケースの廃棄・解体時に放出される心配が残ります。
そこでミニストップでは専門業者に委託し、店舗の改装・閉鎖時にはフロンを回収し、破壊処理を行っています。99年の回収実績は28店舗より1,225kgのフロンを回収し、破壊処理を済ませました。

※オゾンホールとは・・・

オゾン層は地球の成層圏に存在し、太陽光に含まれる有害な物質(UV-B)を吸収する働きがあります。1970年代に入ると、人口の科学物質であるフロンやハロンによるオゾン層破壊が国際的な環境問題として取り上げられ、以来南極では毎年9月から10月にかけて巨大なオゾンホールが観測されるようになりました。

※モントリオール議定書とは・・・

「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」が正式名称で、「オゾン層保護に関するウィーン条約」に基づくものです。1987年に採択され、90、92、95、97年に規制強化等を内容とした改正が行われました。我が国においても、同議定書を受けて、1988年に制定されたオゾン層保護法に基づき、オゾン層破壊物質の生産等の規制を行っています。

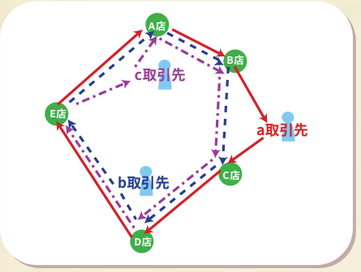
物流の効率化や低公害車の導入により大気汚染の防止につとめます。

車の排気ガスには、地球温暖化の原因となるCO_2（二酸化炭素）ばかりでなく、大気汚染の原因となるNOx（窒素酸化物）、HC（炭化水素）など有害なガスを多く含んでいます。このような配送車の排気ガス対策として、ミニストップでは創業以来、物流の効率化による1店あたり走行距離の短縮化をすすめています。

物流の効率化

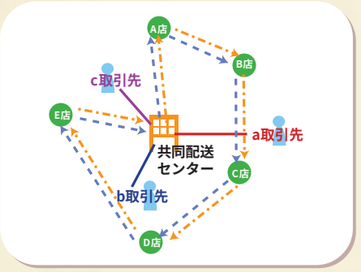
ミニストップが取り組んできた物流の効率化について、簡単な図を用いてご説明いたします。

1 創業当初



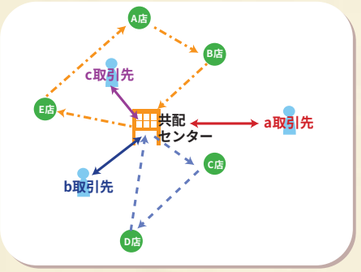
創業当初は各お取引先の配送車が各店舗に直接商品を供給しておりました。
※ 一日一店舗に納品する車輌台数は約50台でした。

2 共同配送センター稼働



共同配送センターを出店エリアの中心に設置することにより、配送時間や配送距離の短縮などトータル的に配送効率を高めました。
※ 1日1店舗に納品する車輌台数は約20台（91年時点）となりました。
※ ただし、2温度帯(チルド商品・お弁当類)を別々の車輌で供給しておりました。

3 2気室温度帯車輌の導入



商品には品質や鮮度を維持するため、種類ごとに配送の時の適温があり、別々の車輌で配送しなければなりませんでした。しかしミニストップでは1台の車輌に2つの荷室を設け、異なる2つの温度帯の配送が可能な車輌を全出店エリアに導入し、配送効率を飛躍的に改善いたしました。
※図例以外にも食料、加工食品、菓子雑貨など常温商品の配送センターも稼動し、更に配送効率の改善をすすめています。この結果1日1店舗に納品する車輌台数は約10台（1999年）まで削減されています。

低公害配送車の導入

地球温暖化や大気汚染の原因の一つに自動車の排気ガスがあります。ミニストップでは98年3月からCNG（圧縮天然ガス）を燃料にした低公害車の導入を始め、燃料充填スタンドの整備に併せ99年末までに4台導入しました。天然ガス車はディーゼル車にくらべ、CO_2（二酸化炭素）の排出量が2～3割も少なく、その他窒素酸化物や煤煙も大幅に低減されていますが、充填スタンドの整備が遅れているなど導入を容易にすすめられない要因もあり、CNG車以外の低公害車につきましても、検討をすすめております。

廃棄物の削減、リサイクルを推進します。

ミニストップの廃棄物削減 4R計画

ミニストップでは次の順番で廃棄物の削減に取組みます。

1 Reduce（削減） → 2 Reuse（再利用） → 3 Recycle（再資源化） → 4 Reasonable Treatment（適正処理）

1 Reduce（削減）
割り箸等の削減

従来、お弁当・冷麺・パスタなどに添付されていた割り箸・スプーン・フォークを99年7月からレジにて必要なお客さまへお渡しする方法に変更いたしました。

2 Reuse（再利用）
プラスチックコンテナの再利用

お弁当等商品を店に納品する時に使用するケースには、何度でも使用可能なプラスチックコンテナを採用し、ダンボールの削減につなげています。

3 Recycle（再資源化）
分別回収ボックスの店頭設置

資源ごみ(びん・缶・ペットボトル)のリサイクルを推進するため、店頭に分別回収ボックスを設置しています。
（ペットボトルの分別回収ボックスは、地方自治体の回収のしくみが整備されている東京23区・名古屋市・大宮市他の324店に設置されています。）

4 Reasonable Treatment(適正処理)
廃油の適正処理

ミニストップで使用している食用油の廃油はすべて、専門の業者さんが回収し、家畜の飼料などの原料に使用されています。

オフィス内の環境啓蒙活動

省エネや省資源など私たちの身近なところから取組みます。

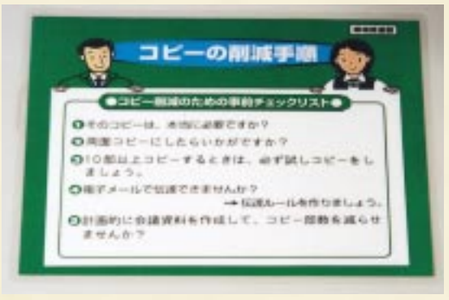
私たちミニストップ社員は日々の事業活動の中で、資源やエネルギーのムダを省き、グリーン購入を促進し、環境に配慮した活動につとめます。

グリーン購入の促進

- ケナフ100%の名刺を使用しています。
- 再生紙100%のコピー用紙を使用しています。
- 再生紙配合の社内封筒、便箋を使用しています。
- 再生紙70%の加盟店向け商品案内紙を使用しています。
- 古紙配合のトイレットペーパーを使用しています。
- 再生ペット配合のボールペンを使用しています。
- プリンターのトナーカートリッジを再利用しています。

事務所内の省エネ活動の啓蒙

各地区事務所には環境委員を任命し、事務所内の空調、照明、事務機器、OA機器などの電力消費を減らすための啓蒙活動を進めています。



ペーパーレス化の推進

- 従来、ペーパーで行っていた社内連絡や定型書式は社内LANを整備し、電子化いたしました。
- 会議資料はOHPやプロジェクターを利用し、ペーパーレス化を進めています。

クリーン＆グリーン活動

緑化や植樹など自然保護への啓蒙活動に取組みます。

「育てよう、花と緑、校庭に」ミニストップでは事業活動以外にも地域の子供たちに花や緑を育てる心を育成するため、さまざまな啓蒙活動を行っています。

花の輪運動の開催

「育てよう、花と緑、校庭に」花の輪運動は、ミニストップ緑の環境推進クラブが91年に発足して以来、(財)花と緑の農芸財団を通じ、店頭募金をはじめとする寄付金をもって実施しております。これまでに1,470校の小学校に「花の苗」「木の苗」をお贈りして参りました。99年は第9回目となり、全国9,600校の小学校に案内状を送付し、2,714校のご応募をいただきました。その中から抽選で350校の小学校に花と木の苗をお届けすることができました。

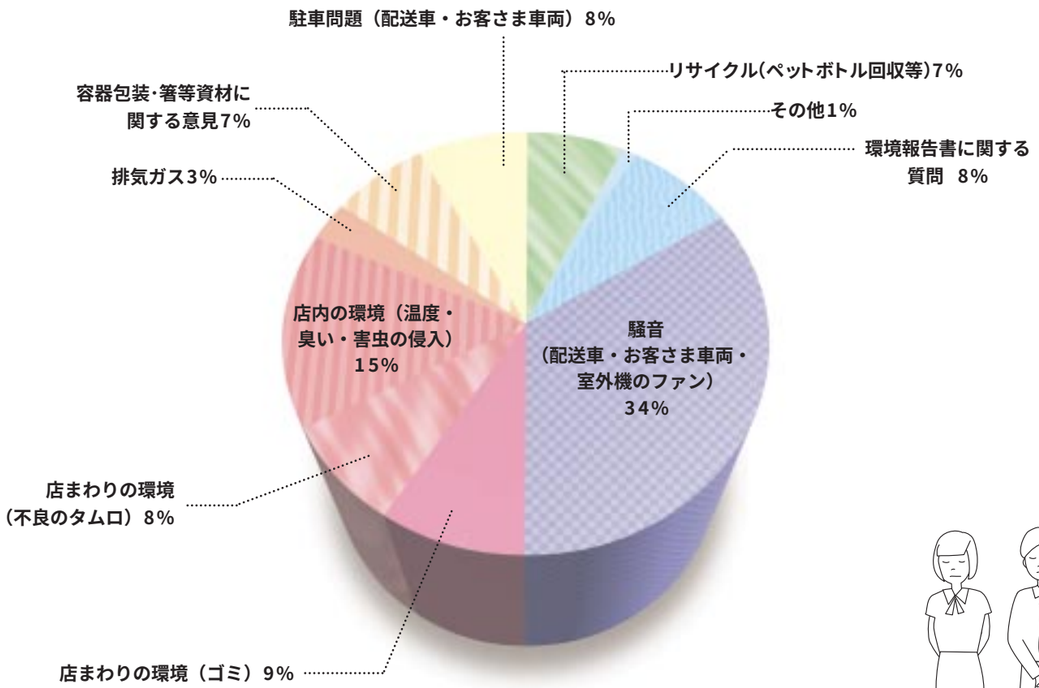
「クマゴンの森」への協賛

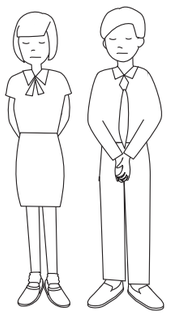
劇団「ふるさときゃらばん」の子供参加型ミュージカル「クマゴンの森」は客席と一体となって自然の大切さや動物たちへの親しみを共感するエコロジカルミュージカルです。ミニストップでは98年からこの活動に協賛し、地域の小学生たちへの啓蒙活動を進め、2000年で3年目になります。

上野公園清掃ボランティア活動

「クリーン＆グリーン活動」の一環として始めた上野公園清掃ボランティア活動も、2000年6月で第100回目を迎えます。社員やお取引先及び家族ボランティアにより、毎月第2土曜日に都民の憩いの場である上野公園の清掃活動を行っています。この活動を通じて参加者が街の美化を意識し、ごみの分別作業を体験しています。

環境に関するご意見・ご要望・お叱り（1999年3月〜2000年2月）





この一年間に81件の環境に関してお客様からのご意見を承り、
1件1件について真摯に受けとめ、対応させていただきました。

**洗い出した環境側面は、テーマごとに問題を分析し、
具体的な活動目標を設定し改善をすすめてまいります。**

取組み項目	テーマ	99年度までの活動状況	テーマ	2000年度の環境目標
1 食品・及び食品容器の安全性	A	弁当の米に減農薬米を使用	A	遺伝子組換え食品の自主表示基準の開始
	A	生野菜サラダ等に減農薬野菜を使用	A	食品添加物の削減
	B	弁当、惣菜等の包装を塩ビラップから非塩ビラップに切替え	F	自然素材の弁当容器の実験
2 環境配慮型商品	B	ビニール傘、レインコートを非塩ビ素材に切替え	B	コピー用紙を非塩素系漂白に切替え
	E	紙コップ、紙皿の素材を非木材のケナフに切替え	B,E	文具にて環境配慮商品の取扱い拡大
	E	古紙配合トイレットペーパー品揃え		
3 環境保全型店舗	C	節電装置ミニセイバーの設置454店舗（37%）	C	ミニセイバーの設置店舗拡大（37%→40%）
	C	HFインバーター照明器具の実験	C	HFインバーター蛍光灯の本格導入
	D	冷凍ケースに使用していた特定、指定フロンを代替フロンに切替え	D	冷凍ケースを代替フロンに切替え完了
	D	店舗の改装、閉鎖時に冷凍ケース等に使われていたフロンガスの回収、破壊処理	D	改装、閉鎖店舗の冷凍ケースに使用されていたフロンガス100%回収、破壊処理
4 環境に配慮した物流	C,B	CNG低公害車の導入（関東、東海）	C,B	充填スタンドの整備に併せ、CNG配送車輌の導入エリアの拡大
	C	共同配送センターの促進	C	共同配送センターの拡大
	C	2気室温度帯車両の全エリア導入	H	店納品用台車を静音タイプへ切替え
5 廃棄物削減、リサイクルの取組み	E,F	割り箸・スプーン・フォークのレジにてお渡しへ切替え	F	再生ペットを使用したユニフォームに全店切替え
	F	商品納入に折畳み式プラスチックコンテナの採用	F	生ゴミ堆肥化の実験
	F	店頭にペットボトル専用回収ボックスを設置(都内23区他324店)	F	店頭にペットボトル専用回収ボックスの設置エリア拡大
	F	ファーストフード用食用油の廃油を全量回収し、再資源化	F	配送車に廃油回収リサイクル燃料を実験開始
			F	廃油を回収し、多目的利用
6 オフィスの環境保全活動	F	社内連絡の電子化 両面コピーの徹底古紙100%コピー用紙の使用	G	エコロジー事務用品への切替え（40%→60%）
	C	地区事務所別電気使用量の実態調査 継続的データ収集	G	地区事務所に環境委員の選任
			G	新入社員の環境教育実施
7 クリーン&グリーン活動	G	上野公園清掃ボランティア活動	G	上野公園清掃ボランティア活動の継続
	G	エコロジーミュージカル「クマゴンの森」への協賛 川口、成田にて公演	G	エコロジーミュージカル「クマゴンの森」の定期開催
	G	「育てよう、花と緑、校庭に」花の輪運動、350校の小学校に花と木の苗を贈呈	G	花の輪運動の贈呈学校数の拡大
			E	万里の長城、森の再生プロジェクトへの参加

(取組みテーマ)
A：人の安全　B：汚染物質の削減　C：地球温暖化防止　D：オゾン層の保護　E：森林保護　F：廃棄物削減　G：環境啓蒙活動　H：その他

「イオングループ1%クラブ」の設立目的

89年、誕生20周年を迎えたジャスコはグループ名称を「ジャスコグループ」から「イオングループ」に改称したのを機に、グループ優良企業各社の税引前利益の1%を社会貢献活動に充てる「イオングループ1%クラブ」を発足させました。「環境保全」「国際的な文化・人材交流」「地域の文化・社会の振興」を主な柱として、99年度までに43億8千万円を拠出しました。

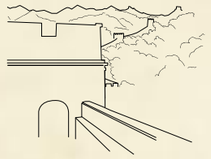
イオングループ1%クラブ事業実績（「環境保全活動」に関わる分野のみ）

年度	分類	助成先名称
1990	事業	「イオングループ環境財団」を設立し助成を開始(毎年)
	寄付	「(財)オイスカ産業開発協力団」への助成
	寄付	「(財)花と緑の農芸財団」への助成
1991	寄付	「三重県・伊坂ダム公園」植樹への助成(～92年度)
	寄付	香港へ「古紙回収ボックス」の寄付
	寄付	「湾岸環境復元研究会」への助成(～94年度)
	寄付	「(財)国際環境技術移転センター」への助成(～93年度)
	寄付	「地球環境キャンペーン事務局」への助成(～92年度)
1992	寄付	「新潟県・新発田市加治川堤」植樹への助成
	寄付	「(財)地球産業文化研究所基金」への助成
	寄付	「マウント・サイナイ医科大学(米国)」への助成
	寄付	「(財)オイスカ産業開発協力団」への助成
	寄付	「(財)国際生態学センター設立準備委員会」への助成
1993	寄付	米国・ボストン市への桜の木の植樹
	寄付	「アート･ルネサンス･ジャパン」(日米民間交流事業)への助成
	寄付	「(財)国際生態学センター」への助成(～94年度)
1996	寄付	環境庁「こどもエコクラブ」活動への助成
1997	寄付	「(財)ユネスコ･アジア文化センター」(エコロジー読本出版)への助成
	寄付	「(財)アジア刑政財団への助成」への助成(～99年度)
	寄付	「南こうせつエコロジーコンサート」への支援
1998	寄付	環境庁「こどもエコクラブ」活動への助成
	寄付	「99 ひょうごの森祭典」開催への助成
1999	寄付	タイ国王72歳記念植樹への助成
	寄付	環境庁「こどもエコクラブ・アジア太平洋会議」への助成
	寄付	環境庁「こどもエコクラブ」活動への助成

イオングループは、地球規模の視点と地域での実践を大切にした環境保全活動に永続的に取組むために、91年1月、「財団法人イオングループ環境財団」を設立。翌92年には、特定公益増進法人に認定されました。同財団では、国内外における植樹、植林をはじめ、環境保全を目的とした事業を行っています。また、環境保全活動を行うNGOに対して、一般公募による助成を実施しており、NGO活動の自主性を尊重する制度として評価を得ています。
99年度までに890件、約7億8千万円の助成を行いました。

万里の長城・森の再生プロジェクト

財団法人イオングループ環境財団では、中国北京市人民政府と共催で「万里の長城・森の再生プロジェクト」に取組んでいます。数百年にわたる伐採により森林が消滅した万里の長城の周辺地域に緑をよみがえらせる壮大な計画。国内外から広くボランティアを募り、森の再生のために、モウコナラなどの苗木約39万本を98年から3年間で植樹します。第1回目の98年7月には日本より1400名のボランティアが参加。第2回目の99年7月も1100名が参加して中国の1100名のボランティアの人々と合流し、モウコナラなど4万4千本の苗木を植樹。2000年も5月に日中合同ボランティアにより第3回目の植樹が実施されます。



「こどもエコクラブ」を支援

95年6月環境庁の提唱で始まった「こどもエコクラブ」では、次代を担う子供たちが自発的に環境保全活動に取組んでいます。イオングループ環境財団では「こども絵画交流展」など「こどもエコクラブ」の活動を支援しています。

環境報告書に寄せて

向井　征二
オービス環境マネジメント研究所　代表
環境庁登録環境カウンセラー（事業者部門）
環境市民東海・代表幹事
環境異業種交流グループ主宰

■日本人のライフスタイルの変化とCVS

第2次オイルショックの翌年に創業したミニストップも、ことしで創業20周年にあたる。日本にとっても世界にとっても実にいろいろなことがあったこの20年だが、日本におけるコンビニエンスストア（CVS）の急速な発展ぶりも特筆すべき出来事と言ってよい。

CVSの普及によって日本人のライフスタイル、とりわけ若者の暮し方が劇的に変わった。CVSへの批判ももちろん根強い。「環境に関してのお客さまからのご意見」にあるとおり、「騒音」「不良のたむろ」「周辺ごみ」で近隣から批判されるケースも多い。少数派の深夜客のためになぜ24時間営業で電気を浪費しなければならないのかも批判の的である。

環境問題では歩の悪いCVSだが、その存在価値が見なおされるきっかけとなったのは、あの阪神淡路大震災であった。いわばアメリカの大陸横断鉄道建設当時のカミサリ(commissary) 、すなわち、生活物資の補給所のように、地域の生活者にとっていかにCVSが必要不可欠の存在になっているかを、日本中が改めて認識した。CVSの役割がそれまでと違った観点から再評価され、業界としてもシステムを再構築する契機となったのである。

■日本型CVSというビジネス文化

現在、CVSは、単に生活用品の販売店だけにとどまらず、昔は日本のどこにもあった「よろずやさん」のように、生活上の便益（コンビニエンス）をすべて引き受けるという、文字どおりのコンビニエンスストアに進化しつつある。これは、新しいビジネス文化の創出と評しても過言ではないだろう。日本の「交番」に見習ってKOBANが、日本企業の「改善」に見習ってKAIZENが、世界各国で日本語のまま急速に普及しつつあるように、海外から導入されたCVSという業態が、日本型CVSとして海外に逆輸出されるまでになりつつある。

このように、各社各様に独自の発展を遂げつつある日本のＣＶＳの中でも、イオングループに属するミニストップの経営理念や環境思想は、他社とちょっと異なるように思える。

その端的な一例が、この環境報告書でも紹介されている、「コンボスタイル」である。店舗の一角がイートインコーナーになっているミニストップのコンボは、まちの憩いのスポットにもなっている。

以前住んでいた地方都市で、私もよく利用した。バス停の前に店があって、入れたての熱いコーヒーの温もりを楽しみながらバスを待っていた冬の寒い朝を懐かしく思い出す。

このようにミニストップの店舗は、買物客だけでなく地域生活者にとって利用しやすい形態になっている。その優位性を活かして、イオングループのザ・ボディーショップが店舗で市民啓発を積極的に実施しているように、店舗が環境教育や環境啓発の地域拠点になることを期待したい。顧客との対話から、エコ商品開発のヒントをもらうことも可能である。このようにコンボ型CVSは他社にない魅力的機能であり、もっと多面的に活用されてよい。

■生活者の共感を得ながら持続的発展を

ことしは品質ISOの世界でも大幅な改正が行われる。そのキーワードは「顧客満足」と「継続的発展」である。筆者が所属する環境NPOではイオングループのジャスコとパートナーシップを組み、店舗のイベントという形で市民向けの環境啓発活動を実践している。

ミニストップも「よろずやさん」にとどまらず、生活者の協力や環境NPOの支援を得つつ地域と共生し、行政とも協調しながら事業体としても発展していくことが課題であろう。

「これまでの環境活動のあゆみ」に記されているように、ミニストップは創業当初から環境活動においても地域に密着した店舗経営を目指している。この環境報告書を読んで初めて知った水面下の地道な環境努力も多い。他のCVSに比べると、やや地味なイメージのミニストップではあるが、マスコミ受けするような話題づくりに走ることなく、地域の生活者に信頼される存在でありつづけ、持続的に事業が発展していくことを望むものである。

会社プロフィール（２０００年２月末現在）

社　　名	ミニストップ株式会社
設　　立	１９８０（昭和５５）年5月２１日
資　本　金	７４億９，１５３万３０００円
店　舗　数	１，２１４店舗
従　業　員	５９２人
事業内容	主としてミニストップの経営希望者とフランチャイズ契約を締結し、加盟店に対して商品情報や経営ノウハウを提供。また、資金面の応援などを行い、その対価としてのロイヤリティを収益とする。また、ミニストップ直営店において、ファーストフード、デイリー食品、加工食品、家庭用品、雑貨などの小売業および公共料金の収納代行などのサービス業を営む。
本　　社	〒１０１－００５４　東京都千代田区神田錦町１－１
本部事業所	〒２６１－８５４０　千葉県千葉市美浜区中瀬１－５－１　イオンタワー６Ｆ
東海地区事務所	〒４５３－００１４　愛知県名古屋市中村区則武１－３－８　野村新名古屋ビル３Ｆ
神田地区事務所	〒１０１－００５４　東京都千代田区神田錦町１－１　帝都神田ビル５Ｆ
仙台地区事務所	〒９８０－０８１２　宮城県仙台市青葉区片平１－４－１５
近畿地区事務所	〒５５０－００１４　大阪府大阪市西区北堀江３－４－１９　大阪金物会館２Ｆ